

令和8年8月28日(金)
令和8年度保健師中央会議
資料 4



国立保健医療科学院 保健師の人材育成

国立保健医療科学院
公衆衛生看護研究分野
統括研究官
奥田 博子
okuda.h.aa@niph.go.jp

国立保健医療科学院 公衆衛生看護研修 一覧

	[短期研修] 公衆衛生看護研修			[長期研修]
	中堅期	管理期	統括保健師	専門課程Ⅲ 地域保健福祉専攻科
目的	公衆衛生看護領域において中堅期(実務リーダー)の保健師として、期待される役割を総合的に理解し、より質の高い保健活動の推進のために必要な能力を獲得することを目的とします。	管理期の保健師として、公衆衛生看護管理の概念を踏まえ、期待される役割を果たすために必要な能力を獲得することを目的とします。	統括保健師として、組織横断的に総合調整し、効果的、効率的な公衆衛生看護活動を推進する能力を養うことを目的とします。	地域保健福祉に関連する業務において、実践活動の質的向上を図るために必要な知識・技術を修得することを目的とします。
対象	都道府県・指定都市・中核市・保健所政令市・特別区に勤務する保健師	都道府県・指定都市・中核市・保健所政令市・特別区に勤務する保健師	都道府県・指定都市・中核市・保健所政令市・特別区に勤務する保健師	国や地方公共団体から派遣される保健・医療・福祉分野に従事している職員(保健師、看護師、管理栄養士、福祉職など)。
受講資格	1. 所属において中堅期にあり、実務リーダーを担う保健師 ※職位は係長以下。 2. 自治体保健師の標準的なキャリアラダーのA-3レベルに到達しているもののA-4レベルには未到達の者 3. 研修で取組みたい地域ケアシステム演習のテーマを明示できる者 4. 受講決定後、事前課題を期日までに提出でき、本研修の講義をすべて受講できる者	1. 管理職に就いている保健師、もしくは管理職を補佐する業務を担う保健師 2. 実務経験年数20年程度の保健師 3. 受講決定後、事前課題を期日までに提出でき、本研修の講義をすべて受講できる者	1. 本庁の統括保健師として配置されている保健師 ※本庁に統括保健師が配置されていない場合に限り、相当の役割を担う保健師である者を含めることができる。 ※次期本庁統括保健師の候補者も応募可能であるが、現在本庁に配置されている統括保健師が受講の優先となる。 2. 受講決定後、事前課題を期日までに提出でき、本研修の講義をすべて受講できる者	1. 国または地方公共団体等が推薦する方で、保健・医療・福祉部門の実務経験が通算3年以上ある方。 2. 学校教育法に基づく大学において保健、医療若しくは福祉に関する課程を修めて卒業した方。 3. 前号に掲げる者と同等以上の学力を有すると院長が認める方。
定員	50名	50名	40名	30名(専門課程Ⅲ全体)
期間	6月(5日間)、2月(3日間):対面 【R8.実績】5月25日(月)～29日(金) 2月17日(水)～19日(金)	11月(4日間):対面 【R8.実績】11月30日(月)～12月3日(木)	7月(4日間):対面 【R8.実績】7月28日(火)～31日(金)	・4月(3週間)、7月(1週間):対面 ・5～6月(10週間):オンライン 【R8.実績】4月7日～7月10日

◆ 研修目的

地域保健福祉の関連業務において、実践活動の質的向上を図るために必要な知識・技術を修得する。

◆ 研修期間



4月(3週間)
集合研修



5～6月(10週間)
オンライン研修



7月(1週間)
集合研修

【参考：R.8年度】

- ・ 受付期間：R.7年12月1日～R.8年1月5日
- ・ 試験（WEB面接）：R.8年2月9日
- ・ 研修期間：R.8年4月7日～7月10日

◆ 履修科目

分割前期（保健所長候補生）との合同履修

地域保健専攻科受講生のみ履修

合同必修科目

- ・ 社会保障論
- ・ 疫学概論
- ・ 保健統計概論
- ・ 健康危機管理・感染症
- ・ 対人保健
- ・ 行動科学
- ・ 地域診断演習

地域保健福祉専攻科必修科目

- ・ 研究方法
- ・ 人材マネジメント論
- ・ 地域保健活動概論
- ・ 地域保健活動方法論
- ・ 地域保健管理論

その他（共通コア科目・特別講義・実地見学等）

グループワーク（ワールドカフェ）、情報統計解析室・図書館活用（文献検索等）、特別講義（保健指導室長講義）、院長講話、別館（実験棟施設）見学、実地見学（厚生労働省（健康局長講話）、JIHS感染症危機管理研究センター（緊急時対応センター；EOC）見学、修了生の実践活動報告等、リクエスト講義（研修生の希望・指定内容）等

cf.) 令和 8 年度長期研修 専門課程Ⅲ 地域保健福祉専攻科 単独履修科目 GIO（一般目標）,SBO（到達目標）

科目名	GIO	SBO
研究方法	- 地域保健分野の研究論文を理解・統合し、実践に活用するための基礎的知識を習得する - 地域保健の実践活動の質向上に寄与する研究計画の立案能力を習得する	- 研究の必要性和研究のプロセスを説明できる - 実践での問題意識を研究課題として明瞭に記述できる - 量的・質的研究の各々の特性を理解し、地域保健活動の根拠や、質の向上に活用する意義を説明できる - 関心のある研究課題について系統的な文献検索を行い、レビューすることができる - 臨床的意義を踏まえた研究計画を立案ができる
地域保健活動概論	地域保健活動における基本的な視点や方法、最新の動向について理解し、説明することができる	- 地域保健施策の動向について述べるができる - 地域保健政策の体系と自治体の地域保健との関連について述べるができる - 独自性や多様性を尊重した地域保健活動のあり方について述べるができる - 地域保健におけるDXの推進の意義や実践への応用について述べるができる - 地域保健行政と国際的な視点に基づく役割について述べるができる
地域保健活動方法論	地域保健活動に必要な視点や方法について理解し、対人保健活動を基盤とした地域保健活動の実践について学ぶ	- 地域保健活動を行う上で必要な視点および基盤となる理論について理解し説明できる - 対人保健活動（地域保健活動における個別支援）の実践に必要な視点、思考を理解し説明できる - 個人・集団・地域全体を視野に入れたアセスメントの結果に基づく地域ケアシステム構築に向けた保健活動計画を立案できる - 地域保健対策の理論、社会動向や課題について理解し、専門職として担うべき役割について説明ができる - 地域保健活動の専門職としての実践を振り返り、実践から得られた学びを述べるができる
人材マネジメント論	人材育成の基本的な概念について理解し、自身および自組織の効果的な人材育成を推進するために必要な知識と技術を習得する	- 地域保健行政における人材育成の現状と課題、その必要性和意義を説明できる - 人材育成における基本的考え方、関連する理論、人材育成方法について説明できる - これまでのキャリアを振り返り、今後のキャリアアップに向けた方法について説明できる - 自組織の人材マネジメントの現状と課題を明らかにし、人材育成上の課題解決に資する計画を立案できる - 自組織の人材マネジメント上の課題解決のために果たす役割を説明できる
地域保健管理論	次期リーダーとして自身に求められる能力や役割に関する、実践的な能力を養う	- 地域保健活動における管理の概念について述べるができる - 地域保健行政における意思決定のあり方について述べるができる - 地域保健分野におけるリーダーシップとマネジメントについて述べるができる - 健康危機管理（平時、有事）における専門職の果たす役割について述べるができる - 次期リーダーとして組織において果たす役割について述べるができる

◆ 修了生（過去3年実績）

- ・ 所属；都道府県、政令指定都市、中核市
- ・ 年齢；28～47歳（平均35歳）、行政保健師経験年数：6～19年（平均11.2年）

◆ 研修全体のふりかえり

- ・ これまでの実務経験を踏まえ、講義で学びを深め、演習やグループワークの繰り返しによって、実践的な理解がより深まった。
- ・ 他自治体の状況を知ることが参考になり、自身の自治体の取り組み等について客観的に把握する機会となった。
- ・ 日頃、リフレクションをする機会もなく、目の前の業務に精一杯だったが、課題を通して理論や視点が整理された。
- ・ 次期リーダーとして、組織の中で求められる役割や、必要な能力など、自身のキャリアを考え、今後を見据えることができた。
- ・ 組織全体の人材マネジメント計画、地域診断演習、地域ケアシステム、次期リーダーとしてのアクションプラン作成など、様々な課題に対し、発表・ディスカッションを繰り返すところにより、多角的な議論や、プレゼンスキルが獲得できた。

◆ 研修方法に関して

- ・ オンライン併用のため、子育て中でも受講が可能であり、家族の協力も得られ、自宅で集中して受講することができた。
- ・ 集合研修では全国の受講者同士の交流機会や、たばこや生活環境に関する科学院内の実験棟の見学などもあり充実していた。

◆ 科目別主なコメント

- ・ **研究方法**：業務と関連する研究計画の立案を通じて、論文の選定、クリティーク、建設的な意見の伝え方などについても学ぶことができました。また、研究的な視点で事業を評価することや、日々の業務で論文を活用することが習慣となりました。
- ・ **疫学統計**：演習を通じて、具体的に指導を受けられ、質疑応答を織り交ぜて、理解を深めることができた。
- ・ **地域診断演習**：データの解釈の仕方や、自所属のデータ分析など、実務にも直結するため大変勉強になった
- ・ **地域保健活動概論**：地域保健活動の概念から、地域保健施策の最新の動向、先駆的取り組み実践まで幅広く学ぶことができた。
- ・ **地域活動方法論**：個別事例の共通課題からケアシステムへ展開する演習を通じて、データを集めて分析するプロセスが身についた。
- ・ **地域保健管理論**：リーダーシップとマネジメント、地域保健活動における倫理、組織管理の実際、健康危機管理演習などを通じて、次期リーダーとしての自覚が高まり、組織において果たす役割を述べることができる。

参考；過去5年間 自治体別受講者の情報

自治体種別	派遣自治体	R4	R5	R6	R7	R8
都道府県	神奈川県			2	2	2
	奈良県			1	1	1
	大分県			1	1	1
	山梨県	1	1	1		
	岡山県	1	1	1		
	徳島県		1			
	佐賀県			1		
政令指定都市	名古屋市	1				
	大阪市	1		1	1	1
	広島市			1		
中核市	倉敷市				1	
	高松市			1		
計		4	3	10	6	5



おわりに

- 国立保健医療科学院の保健師を対象とした研修は、旧国立公衆衛生院設立時（1983年）から、時代や社会ニーズの変遷に応じつつ、脈々と受け継がれてきている。
- 特に、長期課程の修了生の中から、多数の統括保健師を輩出している。
- 長期課程を含む、保健師の階層別研修を、自組織の計画的な人材育成の一環として、将来を見据えた次期リーダーの育成の機会に位置付けてください。
- 推薦者、受講者の双方が、個人の専門能力の修得に留まらず、自組織への還元（貢献）となるよう、目的を共有し、当院の研修を活用してください。

地域健康課題の解決、地域保健活動の発展・向上に資する人材育成のため、
国立保健医療科学院は全面的にバックアップいたします。

令和9年度 研修に関する情報は10月下旬公開予定です。



国立保健医療科学院ホームページ「研修案内」にて最新の情報をご確認の上、応募ください

★ <https://www.niph.go.jp/entrance-index2/> ★